

「地域脱炭素化に向けた大学における環境人材育成の検討会」

2025.5.23

インプット、自己紹介資料

おひさま進歩エネルギー株式会社
取締役 蓬田裕一

自己紹介、職歴

- 1978年生まれ
- 1996～1999年度 筑波大学 生物資源学類（≡農学部）
- 2000～2010年度 茨城県の中規模自治体
（廃棄物リサイクル、観光、農業）
- 2011～2019年度 おひさま進歩エネルギー/長野県飯田市
- 2020～2021年度 北海道の小規模自治体（観光）
- 2022～現在 おひさま進歩エネルギー
（太陽光・小水力の開発や、自治体コンサル）

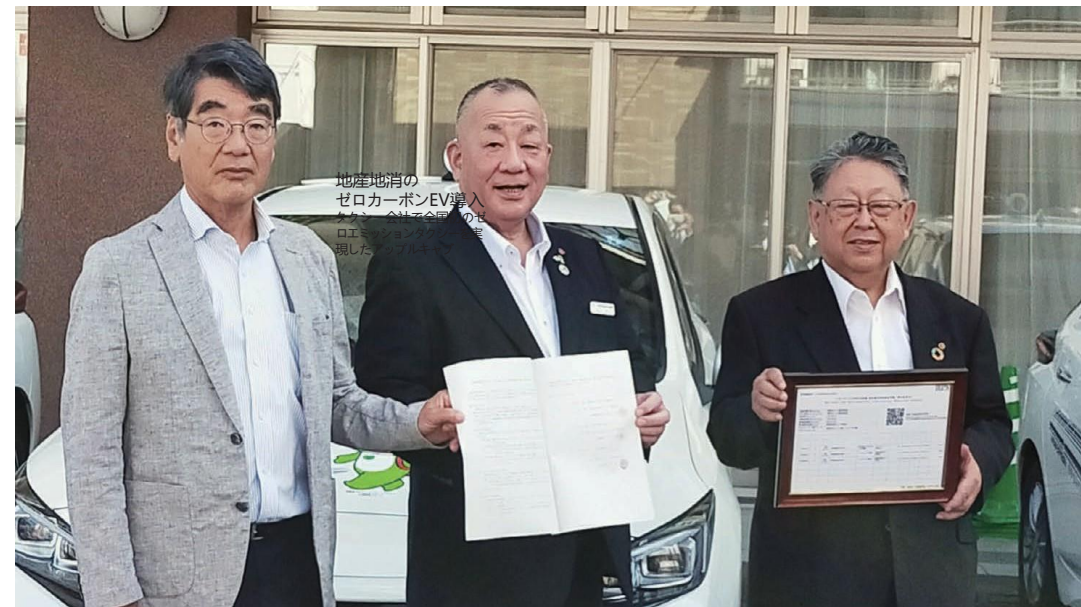
おひさま進歩エネルギー株式会社 事業内容



地域新電力 飯田まちづくり電力



タクシー会社へ地産ゼロカーボン電気を供給



環境への関心のステップ

【小中学生】 1980年代

オゾン層破壊、酸性雨、チェルノブイリ原発事故の報道で、環境問題に関心を持つ。

【高校生】 1993～1995年

地球温暖化を知る。環境問題を農業分野から学べる大学へ。

【大学生】 1996～1999年

1997年、環境に関心がある同級生が多く、環境サークルを立ち上げ。

学園祭ごみ分別ボランティア、環境によい買い物地図作成、学園祭で講演会の企画、1997年COP3（京都会議）への参加など。

大学3年時に地元の市環境審議会の公募委員になり、環境基本条例の制定に関わる。

【就職】 2000年～

環境問題にまちづくりとして関わりたく、茨城県内の市役所に就職。

市民活動として、原発と再エネのドキュメンタリー映画上映会を主宰。
再エネに興味が高まり、おひさま進歩を知り、地域での再エネ事業に関心を持つ。

3.11をきっかけに飯田市に移住、おひさま進歩に入社。

環境人材につながった大学での経験

- 授業で総合的に環境問題を学べたのが面白く、考えの幅を広められた。
生物資源：熱帯林破壊、林業、有機農業、遺伝子組換え、環境経済
他学類：リサイクル、グローバル経済、ドイツ政治（緑の党）
- 環境サークルで、環境活動の現場を知り体験できた。仲間ができた。
COP3京都会議でNGOの世界を垣間見て、社会のしくみとして地球温暖化に関わりたくなった。
- 市環境審議会で、意欲ある大人たちと知り合えた。
（環境研究者、自然観察員、熱心な市民、市役所職員）
環境の分野で何らかの活動するイメージがわく。
条例という法的な仕組みで、地域づくりとして環境を守る方法を知った。
就職にも影響。

大学への期待

- 環境問題は分野や地域問わず起こっている。
その解決には、技術・法律・経済など多様なアプローチがある。専門的な研究に入る前に、総合的に学ぶ機会を持ち、自身のアプローチを絞っていけるとよい。
- 現場での経験によるインパクトが大きいため、授業以外、学外での活動を積極的に促す。何かしらの成果として認める。
おひさま進歩にインターン（高校、大学）して就職した人材2名あり。
- 2000年の就職活動時、当時は環境NPO・NGOの非営利分野はほとんどなく困った。海外NGOインターンも不成立だった。
環境に関心ある学生は、そちらの選択肢も好むのではないか。
授業内外で非営利分野の活動、就職先も紹介する。
（当時は、コンサル、行政、研究者を選ぶ人が多かった）